

I 昭和村のあらし

1. 村の移り変わり

昔の昭和村

村内の各地から、縄文土器の破片や石斧矢尻などが発見されたことから、この昭和村に人が住み着いたのは、今から約八千年前とされています。その後、「えぞ」といわれた人びとが住み着き、鎌倉時代には山ノ内一族が横田（現金山町）に城を築いて、この辺りのまつりごと（政治）を行いました。



▲野尻和久平遺跡からの出土品

その後、中央の幕府の力が強くなるにしたがって、その力が辺ぴな山村にもおよび、昭和の地は会津百二十万石の領内にくみこまれました（蒲生時代）。そして、江戸時代になると、江戸幕府直轄の「お蔵入り」と呼ばれるようになりました（保科時代）。

学校の制度ができたころ

明治5年（1872年）、国のきまり（学制発布）によってどこの市町村にも学校をつくることになり、村（当時は野尻組）にも明治6～7年にかけて、お寺などを借りた小学校がつくられました。しかし、実さいに学校に行ったのは、男子のかぎられた人だけで、女子はほとんど行きませんでした。家の手伝いやお金がかかること、学問などはいらないと考えられたことが主な理由のようです。

このころは、江戸から明治という新しい世の中に変わったばかりで、戦（戊辰戦争）からの混乱も落ち着かないまま、農作物の凶作、経済